みなみいせ 2014

はよおっきい なぁ～れ!

―カサゴの放流　神前湾―

30号
2014.8.1
議会だより

主な内容

平成26年 第２回
６月定例会…… ２～３
一般質問…… ４～13
みんなのつぶやき…… 14～15
みんなでやっとるで～ ほか…… 16

発行／三重県南伊勢町議会
〒516-0194 三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦3057
編集／議会広報特別委員会

平成26年 第2回定例会

平成26年6月17日から19日までの3日間、6月定例会が開催され、一般会計補正予算案7件、条例の制定・改正案4件、財産の取得について1件、工事請負契約の締結について2件の合計13件の議案と、発委1件、報告2件が原案通り可決・承認されました。

一般質問では、10人の議員が論戦を展開しました。

議案

- 平成26年度南伊勢町一般会計補正予算（第2号）　全員賛成
- 平成26年度南伊勢町国民健康保険特別会計補正予算（第1号）　全員賛成
- 平成26年度南伊勢町介護保険特別会計補正予算（第1号）　全員賛成
- 平成26年度南伊勢町下水道事業特別会計補正予算（第1号）　全員賛成
- 平成26年度南伊勢町簡易水道事業特別会計補正予算（第1号）　全員賛成
- 平成26年度南伊勢町上水道事業会計補正予算（第1号）　全員賛成
- 平成26年度南伊勢町病院事業会計補正予算（第1号）　全員賛成
- 南伊勢町介護保険事業計画等策定委員会設置条例　全員賛成
- 南伊勢町地域強靭化計画策定委員会設置条例　全員賛成
- 南伊勢町委員会の委員等の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例　全員賛成
- 南伊勢町税条例の一部を改正する条例　賛成多数
  反対議員　岡田　和夫
  　　手塚　征男
- 財産の所得について
- 南勢・南島庁舎構内電話交換機　全員賛成
- 工事請負契約の締結について（2件）
- 東宮コミュニティセンター建設工事　全員賛成
- 統合保育所新築工事　全員賛成

発委

- 南伊勢町魚消費拡大応援条例　全員賛成

報告

- 繰越明許費繰越計算書について（2件）
- 一般会計
- 下水道事業特別会計

その他

- 議員派遣の件について
- 委員会の閉会中の継続調査について

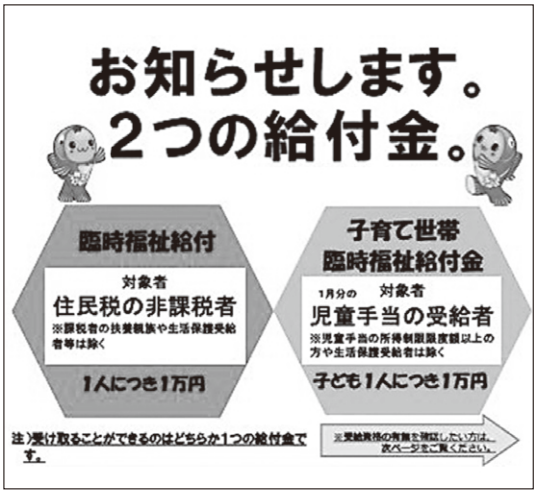
主な質疑

給付金制度は

問　議員　臨時福祉給付金の申請方法と期間は。

答　福祉課長　給付対象者には、7月下旬をめどに個別に申請書を送付する予定。申請期間は8月から11月4日の約3か月間、事業期間は6か月とする。

7月号の「広報みなみいせ」や折り込みチラシで周知予定。



申請を忘れずに!!

補正予算　主な質疑

対象者の支払いは

問　議員　農業振興費の「被災農業者向け経営体育成支援事業補助金」の対象者の負担率は。

答　水産農林課長　この補助金は雪による災害補助金であり、5軒の農家が対象となっている。対象者の負担率は、撤去費用については0、再建費用については10％となっている。

相互理解が必要

問　議員　病院移転地については、よく理解をしていない住民もいるので、きめ細やかな説明が必要では。

答　防災課長　南海トラフ巨大地震・津波の国・県の想定においては、今の場所では浸水してしまうので、病院の建設場所は想定外をなくす高台移転が求められると認識している。今後、推進委員会を設置し検討して頂く予定。

整備計画は

問　議員　「次世代自動車充電インフラ整備事業」の具体的な整備計画は。また、電気自動車の活用計画は。

答　環境生活課長　町民文化会館に1基の急速充電器を設置予定。現在のところ南島地区の設置予定はない。

また、公用車の電気自動車活用も価格が高いので予定していない。

電気自動車の充電風景（町内）

使用料金

問　議員　電気自動車充電器の使用料はどの様に設定するのか。

答　環境生活課長　充電料金は、認証課金システムにより、初回登録料1，500円のほか、毎月1，000円の支払いで何度でも使用ができる方法と、使用する都度支払う方法と2つの料金体制があるが、現在どちらを選択するかは決まっていない。

赤字の解消

問　議員　南島メディカルセンターの赤字解消についての解決策は。

答　議員　南島メディカルセンターの赤字については、協定書に基づき、町が赤字の半額を補填している。赤字解消には、患者数の増加と経費の削減に努める事が必要だと考える。

期待をしている

問　議員　「バイオマス発電事業」には、期待をしているが、今後の進め方と内容は。

答　行政経営課長　バイオマス発電の燃料は、メタンガスによる発電を考えている。この事業により、農林・水産業の振興と六次産業化を研究していきたい。

修理内容

問　議員　南勢種苗センターの修理費について内容説明を。

答　水産農林課長　平成10年に発電機を購入。耐用年数15年が過ぎていて何かと支障をきたしているので、今回エンジン部分を取り換える。

誤りですか

問　議員　教育委員会職員の給料が減額になっているのに、期末勤勉手当・共済費が増えているのは。

答　総務課長　当初予算にて計上誤りがあったので、今回修正した。

基本計画最終年度の主な取組は

26年度経営方針を作成　町長

掛橋　靖 議員

問 若者定住促進・雇用創出・産業活性化はもとより、医療・福祉・介護等の課題に対策を講じなければならない。

総合計画（絆プラン）における、平成25年度3月までの進捗状況と残された課題は。

答 町長　これまでに予算計上し実施した事業のほか、町立病院・保育所等の高台移転、二次避難所整備、地域包括ケアへの取組、新火葬場の建設など、継続的に取組を進めている。

残された課題については、「国立社会保障・人口問題研究所」等が発表した人口減少問題や南海トラフを震源とする地震津波対策等が本町にとって大きな課題であると考えている。

町民起点のまちづくり

保育園の跡地利用は

地元との協議を進める　町長

問 統合保育園（南島保育所・さざなみ園）移転後の旧南島西中学校と旧保育園の跡地利用についての計画は。

答 町長　新しく統合する保育園は、平成27年度4月開園を目指し事業を進めている。南島西中学校の跡地利用については、今年1月から4回にわたって地域の方々に検討いただき、活用計画案を提出いただいた。保育園については、地元の要望をふまえ、協議を進める。

新統合保育園建設地

その他の質問

●小中学校の土曜日授業について

岡本　眞 議員

若者定住対策は あらゆる施策に組み込む

町長

問 現在取り組んでいる少子高齢化対策・若者定住対策・産業振興などを、もっと大々的にリンクさせることが大事だと考えるが。

答 町長 人口減少に伴い進展する少子高齢化対策・若者定住対策は、緊急の課題として早急に取り組まなければならない重要な政策であると考える。

取組を進めていく上で、あらゆる施策の中に若者定住対策の視点を組み込んでいくことが大切。

あらゆる施策を連携させて

教育理念と目標は 「学ぶ力」・「生きる力」

教育長

問 南伊勢町の目指す教育の理念と本年度に掲げる目標は。

答 教育長 具体的・重点的に取り組む目標は、「学力向上」「防災教育」「地域に根ざした教育」の三点。これからの時代は、ただ知識の量が多ければよいということではなく、物事をしっかり見たり聞いたりして、自分の力で考え表現する力を身につけることが重要。そのためには、授業を変える必要があるし、子ども達のいろいろな活動の場面でも、革新が必要。

その他の質問

●福祉政策について

努力して学ぶ力をつける

河村健志 議員

整備状況は
防災照明を設置　町長

問 現在一次避難場所の整備はどこまでできているのか。また、二次避難所整備も含めた、備蓄品配備についての防災対策は。

まずは身の安全確保を

答 町長　各地区の一次避難場所への避難道整備状況は、当初計画した箇所については昨年度までにほとんどの整備を終えている。ただし、用地等の諸条件により役場での整備が困難なところについては地区の方で対応をお願いしている。

また、一次避難場所への目印として、太陽光発電の防災照明107基、蓄電池で停電後2時間程度点灯する安心灯を100基設置した。防災照明については今後も継続して設備していく。

備蓄食糧については、平成24年度に見直しを行い、1年に1万4，000食、5年で7万食の備蓄を目標としている。

二次避難所には、現在、非常食糧・飲料水を備蓄しており、本年度は避難所用敷物・トイレセット・簡易テント及び生活用品等を整備していく。

閉校小学校の利用は
検討チームを作る　町長

問 閉校小学校の校舎と付帯施設の今後の利用は。

答 町長　今後の利用については、役場内に各学校校区別に検討チームを作り、各地区から報告いただいた内容等をもとに、検討を進めていく。

その他の質問

●町民体育大会について

田曽浦区防災ハンドブック

手塚征男 議員

真砂寮の高台移転は組合と協議中　町長

安心な高台へ

問 特別養護老人ホーム『真砂寮』の高台移転について建設用地確保の見通しと今後の状況は。

答 町長　真砂寮の高台移転については、現在、わたらい老人福祉施設組合と協議している。また、建設用地は、町所有地を活用できないか検討している。今後、組合との協議が済みしだい、基本設計などに取り掛かる。

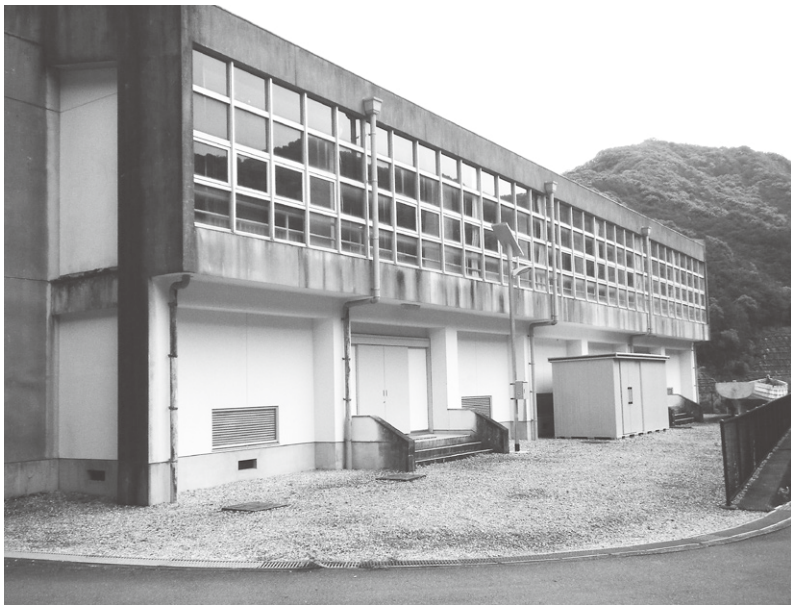
二次避難所の役割は一時的な生活確保　町長

問 南島地域で二次避難所にする予定の施設と収容できる人数は。また、どのような役割を担っているのか。最小限必要なものとして準備を考えているものは。

答 町長　南島地域の二次避難所は10施設4，045人程度収容可能となる。役割としては、災害時に住宅焼失、倒壊等により生活の場を失った方を収容・保護し、一時的に生活が可能となる機能を持つ施設と考える。また、二次避難所に必要なものとして、避難所用敷物・トイレセット・簡易テント及び生活用品等を整備していく。今後は、発電機設置、太陽光発電システム整備、便槽設置等二次避難所運営が実施しやすいよう整備を行う。

その他の質問

- 老人保健施設の問題
- 南島西中学校跡地問題
- 高校に通うバスの問題
- 不明金問題



整備の充実を

町内企業の育成は

勉強会から取り組む　町長

田中喜一郎 議員

問 **町内企業の育成は、個人情報にも配慮した、介護予防と福祉関係にも重要なことでは。**

答 町長　福祉関係の町内企業の育成については、昨年、役場の若い職員たちが取り組んだ「誇れるまちの創造プロジェクト」において、町のお店屋さんの「あれ?」という気づきを支援につなげるしくみを作ろうという提案があった。福祉課においてこれを実現していくために、商工会と協議を始めており、まずは高齢者への対応などの勉強会から取り組んでいきたい。認知症のケアなどを考えると個人情報への配慮など難しい側面もあるが、医療や介護、福祉などを含めたサービスをどのように提供できるかということとともに、地域の皆さんの気づきと見守りの仕組みもあわせて地域包括ケアの体制づくりを進めていく。

町のお店屋さん

「地籍調査」の状況は

今後も継続　管財営繕課長

問 **当町における「地籍調査」の進捗状況と、今後の対応策は。**

答 管財営繕課長　平成25年度現在、三重県下では、24市町村が着手しているが、2市3町が休止状態となっている。

本町では実施済面積1．82平方キロメートル、進捗率0．76％で平成17年度より休止している。今後の対策として、大規模災害に備え地籍調査の前提となる『都市部官民境界基本調査』を昨年度から国土交通省へ要望しており、引き続き船越区、中津浜浦区、五ヶ所浦区の一部で実施している。

今後も継続することにより、南海トラフ巨大地震で被災し、構造物が流失した場合でも、境界を復元し、迅速かつ円滑に復旧、復興が可能となる。

地籍調査の様子

その他の質問

●人口減少問題について

山本周也 議員

町立病院高台移転は

早急な対応が必要　町長

問 **町立病院高台移転事業において、整備の必要性と緊急性について病院及び町民からの要望等はどうか。**

答 町長　現在の町立病院は標高10mで、利便性としては良好な場所にある。

しかし、南海トラフを震源とする巨大地震に伴う大津波が、本町に押し寄せた場合の国及び県の浸水想定によると、現在地では病院全体が完全に水没することになり、患者さんや職員の身の安全、または災害を受けたときの医療対応の最前線基地としての機能も果たせなくなる。

このため早急な高台移転の必要性があると考える。

希望の高台へ

さらに地域包括ケアシステムの拠点施設として町立病院を位置づけており、行政側との一体的な運用も求められている。

これらのことから、早急な対応が必要。

ええやんプロジェクト

定住・移住促進は

町民と取り組む　町長

問 **他町では都会に住む田舎暮らし希望者の誘致活動や、I・Uターンなどの移住希望者の相談窓口を設置しているところがある。本町としても、移住者を受け入れる積極的な取り組みが必要では。**

答 町長　日本全体が人口減少社会の中で、急速に進む本町の人口減少は将来を考える上で大きな問題であると捉えており、定住・移住促進は緊急の課題である。

定住・移住促進など重要な政策については役場だけではなく、町民と協働して取り組むことが何よりも大切であると考えている。

移住促進については、Iターン・Uターンを希望者の就職相談窓口を役場に設置して取り組んでいるが、さらに移住促進を図るためにも官民協働による体制づくりなど他町の取組を参考にして進めていく。

その他の質問

- 新火葬場建設について
- 身体障がい者への福祉医療事業の拡大について

大地震への備えは

防災機能強化を図る　町長

岡田和夫 議員

問 大地震に備えた一次・二次避難所整備の進捗状況と今後は。

答 防災課長　現在２４１箇所の一次避難場所が整備され、孤立が予想される場所には、簡易テント・簡易ソーラー照明を支給している。

今後は、簡易トイレセット・防災行政無線の個別受信機の整備をしていく。

また、二次避難所についても避難用備蓄品を整備し、運営しやすくしていく。

問 二次避難所ともなる体育館天井の改修工事の内容は。

答 町長　建築基準法に適合した耐震性のある天井材を設置するなど、安全性を確保するための機能強化改修工事を行う。

安心のために

どう進めるのか介護施設

計画的に施設整備を行う　町長

問 保険・医療・介護・福祉の一体化のためには介護保険施設は欠かせない。民間の特別養護老人ホーム建設の進捗状況と、老健施設については。

答 町長　広域型特別養護老人ホームについては、社会福祉法人設立許可に向け県へ申請中と聞いており、役場も含め事業開始にむけた調整を行っている。許可が降りしだい、造成工事着工の予定。地域密着型特別養護老人ホームについても、設立許可に向け、県へ申請中と聞いている。

介護施設の建設に関しては、町にどのような介護サービスや施設等が必要なのか、介護保険事業計画策定の中で、老健施設も含め充分検討した上で計画的に施設整備を行う予定。

その他の質問

●町立病院移転計画について

必要な施設を

倉田　育 議員

農業振興地域の活用は
整合を取りながら　町長

問 **町内の農振指定地域の現状と、大規模災害を予想した、有効活用は。**

答 町長　本町の農振農用地は、各地域において樹園地の山林化や耕作放棄地等が見受けられる。

今後は、土地利用の現況調査・地目等の確認作業・地権者の基礎調査を行い、整備計画の見直し作業を進めていく。また、大規模災害を想定した一部農振農用地の事前除外は、本町の地域防災計画や公共施設の高台移転計画等と整合を取りながら、総合的に判断していく。

農業を守る

獣害対策は
重要施策　町長

問 **町内における有害獣の駆除方法と駆除後の処理方法は。**

答 町長　当町の基幹産業である農林水産業の振興を図るうえにおいて、鳥獣害対策は重要施策であり、駆除と防除の両面から進めている。

駆除方法は、銃や箱わな、くくりわな、大型捕獲檻で、埋設処理を行っている。一部地域から埋設場所が不衛生との声があるので、月に一度見回りを行い対策を講じている。

採用審査基準は
総合的に判断　総務課長

問 **少子高齢化対策にかかる、本町役場職員新規採用に関して、重視している審査基準は。**

答 総務課長　役場職員採用の審査基準において重視している点は、一次試験は点数、二次試験は、職場適応性検査結果や、面接による協調性・積極性・堅実性などの項目による採点及び、外部にお願いしている作文の採点結果を基に、一次試験結果と併せて総合的に判断している。

情熱のある人を求む

澤村圭也 議員

主要道路の管理は

県が管理 建設課長

問 本町内の国道・県道には道路に覆いかぶさった樹木が多く見られる。美しい景観を保ち、観光客の誘致と倒木による道路の通行止めを防ぐためにも、樹木の伐採をしては。

答 建設課長 町内には国道が1路線、主要地方道が5路線、一般県道が8路線あり、全て県で管理している。これらの路線のうち1路線を除いて除草が行われ、車道については高さが4メートル未満で外側線をはみ出している枝を切り払っている。歩道については高さが2・5メートル未満の枝を切り払っている。この場合、個人所有の木の枝であれば、承諾をとってから行うが、立ち木の伐採は行っていない。

主要道路の環境整備を

長寿を祝っては

検討していく 町長

問 敬老の日に100歳以上の方とその家族、入所している施設を毎年訪問しては。

答 町長 本町は高齢化率は高いが、「健康長寿」に寄与する、高齢者の運動や文化活動、社会や地域に貢献する活動などを支援し、高齢になってもその人らしく自立した生活を送りながら、元気に生きがいを持って暮らすことが出来る町の実現を目指している。そのようなことから、ご長寿をともに祝うことはすばらしいことだが、皆さんの意向なども伺いながら、どのような形で実施できるのか検討する。

長寿を祝う

山本芳隆 議員

撤去費用の助成は 慎重に判断 町長

問 本町の『空き家バンク制度』において、調査対象とならない耐震度のない空き家のうち、危険な状態にあると思われる軒数と、それらの撤去費用助成に対しての考えは。

答 町長 平成21年度の調査では、当時、890軒の空き家があった。また、本年度の職員の目視による実態調査では、危険な状態にあると思われる空き家は、12軒が該当すると思われる。

地区懇談会においても、撤去や取り壊しの要望があり、役場内で空き家等に関する検討会を立ち上げ、その中で空き家の撤去費用の補助についても検討している。しかし、個人の資産であることから、公費で撤去費用の補助を行うことは、慎重に判断をする。

急げ危険の除去

持続可能な漁業振興は 再生と資源管理の継続 町長

問 水産業が持続的に発展していくためには、藻場や干潟が保たれた豊かな漁場と、漁業所得向上のための、種苗生産が必要と思うが、取組は。

答 町長 町内においても藻場が消失する「磯焼け」が見られ、阿曽浦では漁業者自らが漁場を守るためにガンガゼ等の食害生物の駆除を継続して行っている。宿浦ではこれに加え、アラメ・カジメの藻礁を設置している。また、宿浦・相賀浦・神前浦・古和浦ではヒジキ藻場の再生に取り組んでいる。種苗生産については、アサリ・アワビ・カサゴ・アコヤ貝等に取り組んでいる。

カサゴ放流

その他の質問

●介護について

つぶやき

地元のよさを発信♪＼(^o^)／

大学３年生の息子が、「夏休みに友達を４人程連れて、帰るけどいいかなあ？」と突然電話があり、ビックリしました。

友達とアルバイトをして、横浜に行くと話していたのに、どうしたことか。

聞いたところ、どうやら自分の生まれ育った町のことを、みんなに話し写真を見せたら、「横浜よりいい。」ということになったようなのです。

家を離れて地元を再確認し、ありがたさを感じ、ふるさとの良さを友達に伝えていることが、とても嬉しかったです。今年の夏は、海の幸で『お･も･て･な･し』して美し国を目一杯味わってもらおうと思っております。

（50代女性）

少し気配りを…

一人になってから毎日をどのように過ごそうかと考えることが増えました。小島さん（小島医院）へ行く以外は、家でテレビを見てのんびりしています。たまに町の行事や講演会のお知らせをもらいますが、南島地区からだと交通手段がないので行けません。ご近所のお友だちとお出かけもしたいけど、五ヶ所浦ばっかりで残念です。催し物がある時は直通のバスの手配をお願いします。

（70代女性）

若者の定住を真剣に

前々から思っていたことですが、役場の職員で町外に住み、通勤している職員が多いと思いませんか。法的には居住権の自由から問題ないのかも知れない。しかし住民から見れば、じゃあ水害、災害、台風、地震等の時対応できるのかという疑問や、さらに地元で生活し家庭を持ち、子どもを育てることをしなくてこの地域の実情が理解できるのかということです。さらに町が少子化対策、若者の定住を真剣に考えているというなら、行政側から率先して職員を定住させ減少化に貢献すべきだと思います。

（60代女性）

あなたも つぶやきませんか？

どんなことでも大丈夫です(^^)／

みんなでつぶやきましょう。

思ったこと、感じてることを200字程度でつぶやいて下さい。

※ハガキかFAXで送って下さいね。

〒516-0194
南伊勢町五ヶ所浦3057
議会事務局　宛
FAX　0599－66－2164

みんなの

町にもの申す

私には住み慣れた家を離れたく無くて一人暮らしをしている85歳の母がいます。週２回のデイサービスを利用していますが、もっと身体が不自由になった時に町内の介護施設に入れるのだろうかと日々心配しています。

私は現在町営住宅に住んでいますが、家賃の高さと修繕の困難等もあり、町外での生活も考え始めています。議員は役場も町長も町民を思い一生懸命やっていると言いますが、確かにそうなのでしょうけど、伝わって来ないのはなぜ？

（50代女性）

沿線に花を

デマンドバスのなかで、近所のおばちゃんが「他地区の停留所や、道路は花いっぱいできれいにしているのに、地元のバス停のまわりは、かやや雑草で見苦しかったので、草抜きをした。」と言っていました。おかげでさっぱりとなり、皆が気持ちよく利用しています。こんな風な心配りは嬉しいですね。できれば、道路の沿線が花でいっぱいになって、通行していく運転手さんや皆の気持ちがなごんで自然と笑顔になれるといいと思います。

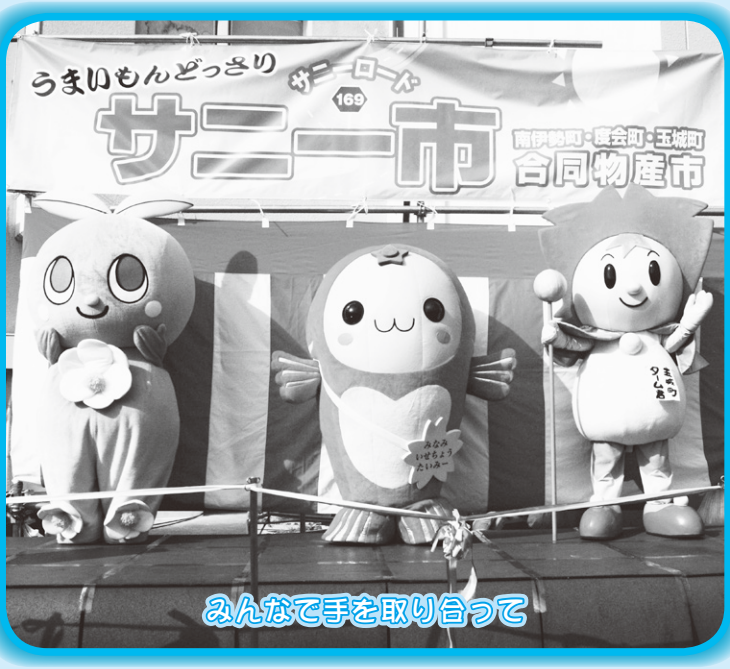
（50代女性）

笑顔を

私が子供の頃は、近所にもっと子供がいて学校が賑わっていた。

今は、自分の通っていた小学校がなくなり、子ども達の通学風景も見られないのが寂しく思う。母校がなくなるのは寂しいけど、統合した小学校で子供たちが仲良くイキイキと育っていくことを願っています。

（40代女性）



みんなで手を取り合って

みんなでやっとるで～

町内のがんばっている人を紹介します！

南勢海洋少年団

設　立　昭和47年
団員数　15人

南勢海洋少年団は、「海に親しみ、海に学ぶ」をモットーに青少年の健全育成と海辺の町にふさわしい活動を目的に、今から43年前の昭和47年(1972)５月５日に誕生しました。普段は手旗訓練やロープワーク、カッター訓練を第２・４日曜（９時～11時）に行っています。また、日本連盟主催の国際交流にも積極的に参加し、地域の海の掃除や40年続いている伊勢神宮までの耐寒訓練は伝統行事になっています。今年８月９日（土）・10日（日）には私たちの町で中部大会を開催します。カッターレースや巡視船の体験乗船も計画していますので、皆さんぜひ参加してください。

募集

議会だよりでは町のがんばり屋さんを募集しています。自薦他薦は問いません。
※下記の議会事務局まで

議会だよりのスタッフが新しくなりました！

今年４月の南伊勢町議会議員選挙において、新たな議員が選出され、それにともない「議会だより」のスタッフも新しくなりました。これからも町民の皆様に、議会活動に関心を持っていただけるよう全力で頑張ります。

議会広報特別委員会

委員長	田中喜一郎
副委員長	掛橋　靖
委員	山本　芳隆
	河村　健志
	倉田　育

議長　上村　久仁

議会を傍聴しませんか

９月定例会が開催されます。
開催は**９月９日～９月16日**の予定です。
ぜひ傍聴してください。
（当日、総務課で受付をしてください）

編集後記

７月に発生した台風８号は、日本各地に大きな爪あとを残しました。被災された皆さまには心よりお見舞い申し上げます。

さて、議会広報特別委員会の委員長を拝命してからの数か月間は、この「議会だより」の重み、それゆえの責任を強く感じてきました。新メンバーで編集したこの第１号は、課題も残りましたが、たくさんの方々にご協力いただき、発行に至ることができました。誠にありがとうございました。

まだまだ暑い日が続きます。皆さまにおかれましては食中毒や熱中症にはくれぐれもお気をつけください。

議会広報特別委員長　田中喜一郎

議会だよりについてのお問い合わせなどは、議会事務局までご連絡ください。

☎０５９９㊻１７８１
FAX ０５９９㊻２１６４